

1 単元名 状況の中で 「新聞の社説を比較して読もう」

2 単元の目標

- 比較する観点を立てて二つの社説を読み比べ、ものの見方や考え方を広げる。  
〔国語への関心・意欲・態度〕
- 二つの社説を読み比べ、構成と内容について理解することができる。  
〔読むこと・伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕
- 二つの社説の特徴・効果などについて、根拠を明らかにして説明することができる。〔話すこと〕
- 二つの社説を読み比べ、主張や論理の展開、表現のしかたなどについて、その特徴や効果を評価することができる。  
〔読むこと〕
- 「和食」「食」についての自分の考えを明確にし、適切な構成で書くことができる。〔書くこと〕

3 指導観

- 本単元は、中学校学習指導要領の第3学年「C読むこと」の指導事項「ウ 文章の構成や展開、表現の仕方について、根拠を明確にして自分の考えをまとめること」及び、「B書くこと」の指導事項「ア 日常生活の中から課題を決め、材料を集めながら自分の考えをまとめること」を取り上げて指導することをねらいとして設定されている。

論説文の主張を捉えるためには、まず文章の構成と論理の展開に着目する必要がある。その上で、事例の取り上げ方や表現・語句に着目することが大切である。そのために、「事実が述べられている部分」と「意見や主張が述べられている部分」を見分け、事実や根拠と筆者の主張が、どのように結びついて論が展開されているかを読み取ることが求められる。

ここでは、「和食」が無形文化遺産に登録されることを題材にした二紙の社説を取り上げている。社説Aの主張が「和食」を後世に残すための取組の大切さであるのに対し、社説Bは「食」を守る社会づくりの重要性を主張している。本論の構成は、社説Aが和食の特色を「自然を大切に」という「大きな情報」から「見て美しく楽しい」など「小さな情報」の順に配列、社説Bは登録への経緯を概ね時系列で配列している。二つを比べ違いを読み取ることで、それぞれの構成・論理的展開の特徴をより明確に捉えることのできる教材である。

生徒たちは、記事の読み比べの活動を小学校で学習してきており、中学校でも「新聞記事を比べる」で、書き手の視点の違いや事実の解釈の違いによって表現が異なることを学んでいる。また、昨年度から週末課題でコラムを視写する活動に取り組んでおり、新聞の論説文を読むことへの抵抗は少ないと考えられる。しかし、中学生には馴染みのない言葉も多く内容の理解に手間取ることも予想されるため、適宜解説を加えながら学習を進めたい。

- 本学級の生徒（A組：女子3名、B組：男子1名、計4名）は、穏やかで落ちつきがあり、協力しながら学習しようとする姿勢がある。何事にも興味をもって取り組み、授業中も概ね真面目に取り組むことができる。今年度より、B組（特別支援学級）の生徒1名も一斉で授業を行っている。この生徒は、話す・聞く能力が非常に高く理解も速いが、書く分野に課題があり、取りかかるまでに時間がかかる。そのため、昨年度は個別に授業を行い支援をしてきた。今年度4人で授業をする中で、互いの優れた面に刺激を受けながら、徐々に授業に対する意識も向上してきたところである。他の生徒は、3名とも作文を書くことが好きで、得意意識ももっている。小説などもよく読んでいるが好みの分野に偏りがちで、語彙力や文章の読み取りの力は決して高いとは言えない。また、少人数ゆえ生徒同士で多様な考えを出し合うことに限度があり、加えて慣れ親しんだ現状に満足する傾向もあって、切磋琢磨しながら学習を進める指導をしているところである。

4月のNRT標準学力検査結果によると、中領域「論理的な構成を考えて話すこと」や「構成や展開に注意して聞くこと」は平均をやや上回っているが、「目的に沿って話し合うこと」が低く、「話合う」分野に課題があることが分かっている。

- そこで本時は、前時に用いたワークシートをもとに、二つの社説を比較して読み、主張や論理の展開、表現の相違点・共通点を見つけることから始める。文末表現や文章構成、表現といった述べ方の問題と合わせて、主張や具体例に納得できるかどうかという視点を加えて「評価」をしていく。中心発問「どちらの社説がより説得力があるか」については、各自が自分の受け取り方に応じて自由に感想を述べる雰囲気を大切にしながら、内容の面からは「納得できた点」・「納得できなかった点」を挙げさせる。述べ方の面からは「接続詞」に着目させたり「双括式」であることを捉えさせたりと、いくつかのヒントや視点を準備して考えを深めさせる。

話し合いの際には、まず二つの社説の違いと共通点について個人で考えさせ、発表メモを準備させる。発言には必ず根拠を入れて述べるようにあらかじめ指示し、互いの発表を交流したあとに、友だちの発表から新たに気づいたことを取り入れるよう促す。

前時で、二つの社説の内容は把握しているという前提で授業を進めるが、適宜音読も織り交ぜながら、言語活動にメリハリをもたせたい。その際、キーワードや気づいたことに線を引きながら読む活動を行うことで、今後、新聞や雑誌など様々な文章を読む際に、内容の概略を捉えたり、重要なポイントを押さえたりする力を育てたい。また、新聞に限らず、常に批評の目をもって文章を読むことも意識させたい。

振り返る段階では、週末課題でこれまでに取り上げたコラムなどから、適切な例を取り上げ、本時の学習内容の応用と習熟を図り、自己の成長を感じさせる場面を作りたいと考える。

以上のような取組を通して、須木中学校区の研究主題である「目的意識をもち、確かな学力を身に付けた児童生徒の育成」の具現化を目指したい。

#### 4 単元指導計画（全3時間）

時	主な学習活動・学習内容	評価の観点				
		関心	話・聞	書く	読む	伝国・語
1	・二つの社説を読み、文脈上の意味を理解し、話題を確かめる。 ・二つの社説を「見出し」「主張」「論理の展開」「表現・語句」などの観点で比較し、気づいたことを表に整理する。	○			○	○
2 (本時)	・二つの社説を比較して気づいたことを交流する。 ・どちらの社説がより説得力があるか、根拠を明確にして話し合う。		○		○	
3	・論理の展開を工夫し、「和食」や「食」について、400字程度の意見文にまとめる。 ・書いた文章を読み合う。	○		○		

#### 5 本時の目標

- 二つの社説を読み比べ、主張や論理の展開、表現などについて、その特徴や効果を理解することができる。  
〔読むこと〕
- 二つの社説を読み比べ、主張や論理の展開、表現のしかたなどについて、その特徴や効果を評価することができる。  
〔話すこと・聞くこと〕

#### 6 学習指導過程 ①何のために学習し何に役立つかがわかる ②言語活動 ③成長を実感できる

段階	学習内容及び学習活動	指導上の留意点	評価
つかむ	1 「論説文」について再確認する。	○ 新聞の社説欄を探させる。 ○ 社説がコラムと同じ「論説文（書き手の意志・主張が明確に提示させる文章）」であることを、確認する。 ○ 新聞の役割、値打ちについても考えさせ、将来に役立てようとする気持ち	

つかむ	2 二つの社説の内容を確認する。 3 本時の目標を確認する。  <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">二つの社説を読み比べ、主張や論理の展開、表現などについて その特徴や効果を評価しよう。</div>	をもたせる。  <input type="radio"/> 前時にまとめたワークシートを見ながら復習する。  <b>(1)</b>
		○ 単元の終わりに意見文を書くことを予告し、学習の見通しをもたせる。
考える	3 二つの社説の特徴、効果などについて、根拠を明らかにして、互いの気づいたことを交流する。 <ul style="list-style-type: none"><li>・個人で5分考える。</li><li>・ペアで5分考える。</li><li>・全体で5分交流する。</li></ul>	○ 自分の考えと根拠をメモさせる。 ○ 自分の考えを説明する際、根拠を明確にして述べさせる。  <input type="radio"/> 二つの社説の相違点と共通点に着目させる。 <ul style="list-style-type: none"><li>・文末表現<ul style="list-style-type: none"><li>A…「～にしよう」(読者への勧誘)</li><li>B…「～たい」(筆者の希望)</li></ul></li><li>・配列<ul style="list-style-type: none"><li>A…大きな情報→小さな情報</li><li>B…時系列</li></ul></li><li>・追記<ul style="list-style-type: none"><li>A…「こうした一方で、」</li><li>B…「ただ、」</li></ul></li></ul> <b>(2)</b>
		評価 1
深める	4 どちらの社説がより説得力があるか、根拠を明確にして評価する。 <ul style="list-style-type: none"><li>・個人で5分考える。</li><li>・ペアで5分考える。</li><li>・全体で10分交流する。</li></ul>	○ 前時の観点別に整理されたワークシートを参考にすることで、根拠に基づいて考えさせるようとする。  <input type="radio"/> 作業が進まない場合は、以下のヒントを与える。 <ul style="list-style-type: none"><li>・「納得できた点」・「納得できなかつた点」を挙げてみるよう促す。</li><li>・接続詞や論を進める言葉（「こうした一方で」、「こうしてみれば」）などに着目させる。</li><li>・「双括式」と「尾括式」の効果について考えさせる。</li></ul> <input type="radio"/> 書くときのヒントになる点を押さえながら学習を進める。  <input type="radio"/> 根拠を明確にして考えることができれば良しとし、どちらの社説を優れていると評価するかは問題としない。  <b>(3)</b>
		評価 2
振りかえる	5 本時の学習内容を、短い例文で確認し、まとめをする。 <ul style="list-style-type: none"><li>・双括式</li><li>・大きな情報→小さな情報</li></ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">主張に説得力をもたせるための、いろいろな工夫がある。</div>	○ これまでに週末課題で取り上げたコラムの中から適切な例を選び、本時の授業を応用して読むことで習熟を図る。  <b>(3)</b>
	6 次時に書く意見文のテーマを考える。	 <input type="radio"/> 話題の例を示唆する。 <input type="radio"/> 次時は、主張文を書いて読み合うことを再度予告する。

## 7 評価

評価1 二つの社説を読み比べ、主張や論理の展開、表現などについて、その特徴や効果を理解することができたか。 [読むこと]

評価2 二つの社説を読み比べ、主張や論理の展開、表現のしかたなどについて、その特徴や効果を評価することができたか。 [話すこと・聞くこと]

## 8 板書計画

